



日本の花火の楽しみ／ 水の山 富士山

学び

読み比べ

文章の構成と表現

一年生では、説明的な文章の特徴を踏まえ、次のような学習に取り組みました。

- ・ 文章の構成を捉える。(段落の役割)
- ・ 論理の展開を捉える。(問いと答え、事例)
- ・ 説明の仕方に着目する。(反論)

説明的な文章を読むときには、具体例のあげ方や論理の展開、表現の工夫など、筆者の説明の仕方という観点に着目してみよう。そうすると、筆者が自分の考えや主張に対する読者の理解をどのように促そうとしているか、筆者の説明の意図を捉えることができます。

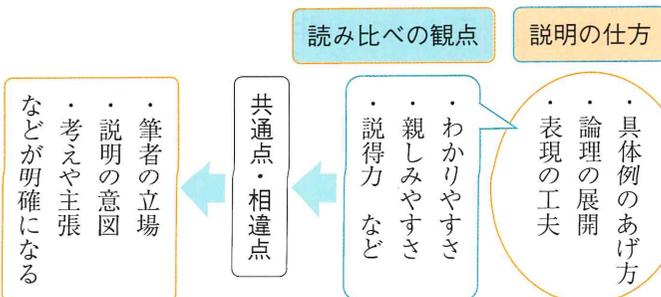
ここで二人の筆者は日本を代表する文化や自然といえる「花火」と「富士山」の魅力について、ふだんはなかなか気づかないところ、あるいは、見えにくいところに着目して、謎を解き明かすように解説を加えながら説明を展開しています。説明の仕方に着目しながら読み比べて、筆者の説明の意図を捉え、考えや主張の理解を深めましょう。

目標

- 意見と根拠などに注意して読み、情報のつながりを理解する。
- 主張と例示の関係を捉え、説明の仕方という観点に着目して読み比べる。

読み比べ

- 事例と論の展開／紙の建築
- 推論／ガイアの知性
- 筆者との対話／学ぶ力



論理の展開の違い

筆者の最も伝えたい内容だけではなく、文章全体に表れている筆者の説明の流れにも着目しましょう。

筆者は、なぜこのような例をあげているのか、なぜこのような表現を用いているのか、このような論理の展開が読者にどのような効果を与えているのかなどについて、「わかりやすさ」「親しみやすさ」「説得力」などの観点を決めて、説明の仕方を比べながら読みましょう。

表などにまとめて整理してもよいでしょう。このようにそれぞれの筆者の説明の仕方に着目することで、筆者の立場や説明の意図が明確になり、筆者の伝えたいことをより深く読み進めることができるでしょう。

また、筆者による、読者の理解を助けようとする配慮など、さまざまな表現の工夫に気づくこともできるでしょう。

共通点や相違点				説明の仕方 具体例の あげ方	『文章A』	『文章B』
○○○○	表現の工夫	論理の展開				

○表にまとめる例

○図や付箋ふせんにまとめる例



..... 15 10 5



ヒント

● 図や写真と、文章の内容との関係を捉えてみよう。
● 筆者の説明の仕方の特徴を比べて、説明の意図を捉えてみよう。

『日本の花火の楽しみ』

↓ P 55 みちしるべ 3

『水の山 富士山』

↓ P 62 みちしるべ 3



日本の花火の楽しみ

小野里 公成
おのぎと きみなり

日本では、夏を中心に一年を通して花火大会が開催されている。その数は主だったものだけでも千か所以上に上り、いずれも数千から数万人の観客がつめかけて花火を鑑賞する。花火が日本人をこれほどまでにひきつけるのは、どうしてなのだろうか。

現在は、欧米おっぴの花火大会のように大量の花火を連続して打ち上げる方法が人気を博している。しかし基本的には、一発ずつの花火をじっくり鑑賞できる打ち上げ方法が日本の花火大会の主流だ。ゆえに日本の花火は、一発のできばえを極限まで追求して進化してきた。その特徴は、整った形と、明瞭めいりょうな色彩が変化するさまにあり、そこに人は美しさと魅力みりょくを見いだすのだと思う。



10

5

意 意 魅
明 極
瞭 限

欧

打ち上げ前の花火玉は丸い球体で、中に光や色を発する「星」と、花火玉を割って星を遠く飛散させるための「割火薬」が層をなして入っている。上空で破裂すると、一瞬で火薬の燃焼による花が大きく整った球体に広がる。これが「割物」と呼ばれる花火で、飛び散る星は光の粒となって明るく多彩な色を放つ。そして、その色が何度となく移り変わるといふ変色のしかけを備えている。これは、発色の違う火薬が二重三重の層になっているためである。

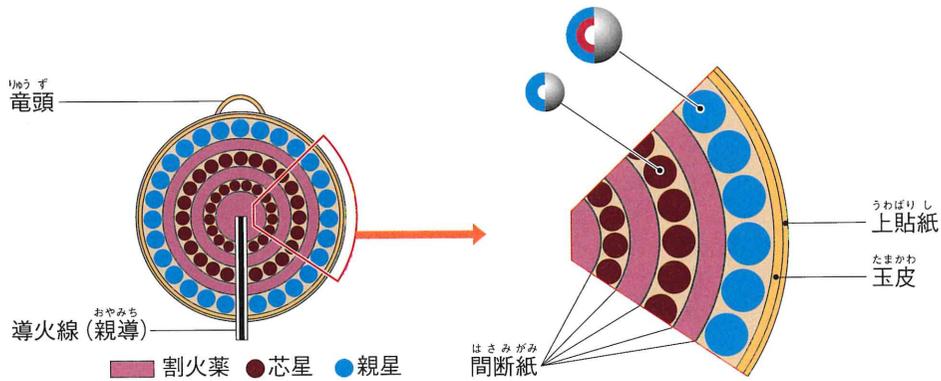
「割物」の中でも、球体の内側にさらに「芯」と呼ばれる球体の一つ、または複数入れ込んだ「芯物」という種類の花火がある。これは、製作に大変手間がかかることから、高い品質を維持することが難しい。それを可能にしてきたのが、「花火師」と呼ばれる職人がもつ高い技術とよりよい花火を探求する精神だ。

花火師たちは、花火を作り、それを打ち上げることを仕事とする。危険な火薬を取り扱うため、製作時にも打ち上げ時にも安全に配慮しながら、日々、新しい花火の創作に打ち込んでいる。

15

10

5



「芯物（八重芯）」の花火の構造（星の中にさらに火薬の層が作られる）

同 探求

▼ 芯

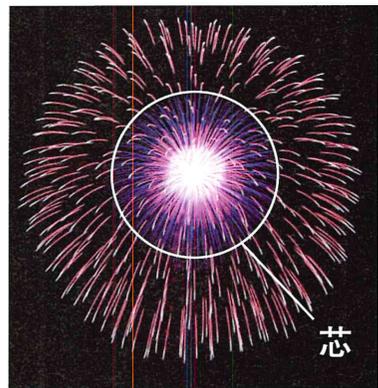
玉皮
「星」や「割火薬」を入れる紙製の容器。その外側に、玉皮全体の強度を調整するための上貼紙を貼り重ねる。

花火師によると、理想とする花火の姿は、ゆがみなくまん丸く大きく開いたものだという。破綻はたんのない丸さは、日本の花火の最大の特徴として追求されてきた要素だ。さらに、はつきりした発色で一斉に変色し、一斉に消える。芯物の場合は、芯の部分全体ができるだけ丸く大きく開き、その中心が一点に合わさる。それぞれの条件は単純だが、同じように細心の作業をしても、全てを満たす満足のいく花火玉は、年に数えるほどしか生まれないとのことである。

形の乱れやゆがみは、見た目の美しさを半減させる。花火作りは、内包する部品作りから組み立てにいたるまでほとんどが手作業で、その良しあしや精度が、開花した時の姿に大きく影響する。丁寧な作業を積み重ねることで、理想の姿に近づけていくのだと花火師は言う。

大きく整った球体となって開花するためには、花火玉を、上昇じょうしょうから落下に転ずる一瞬止まった時に開かせることが欠かせない。動きの途中で開くと、花の形がゆがんで丸く開かない。このタイミングを合わせるために、打ち上げる技術にも気を配る。

花火玉が開いて、星が一斉に飛び散って作る全体の形のことを「盆」という。花火が開く時の直径は、花火玉の大きさでおおよそ決まっているが、それをより大きく見せ、理想的な盆にするために、星を正確に敷き詰め、加えて、割火薬の爆発力と、玉皮の強度などのバランスを追い求める。



真球に近く理想的な形に開いた花火とその芯

考
条件

意
破綻

▼
昇

▼
綻

花の花弁や芯になぞらえられる星は、花火の命といわれる。全ての星が一系乱れず均等に飛び、同時に変色し、消えなければならぬ。内包する数百の星を均質に仕上げるために、花火師は星の製作に最も神経をつかう。形や燃え方にふぞろいがあれば、その星はまっすぐに飛ばない。いくつかの星が蛇行することを「星が泳ぐ」、着火しない星があつて均等に広がった光の一部が欠けることを「抜け星」という。いずれも、理想とする花火の姿を破綻させてしまう要因になる。

それぞれの星の色合いや変色の具合も、観客の目を楽しませることができるとかどうかに影響する。花火の完成度を高めるためには、色の変化の多さだけではなく、理想の色に見えるか、また、足並みがそろつて同時に変化しているかが重要だ。

花火が消える時には、全ての星が一つも残らず一斉に燃え尽きて、全体が一瞬で消えるのが理想で、これを「消え口がよい」と評価する。消え際のよい花火は強烈な余韻を残し、開いている時の華やかさとの落差が、より鮮烈な印象とはかなさを見る者の心に焼きつける。花火師が丹精をこめて作った花火は、こうして夜空で咲き、消え去る時にようやく完結する芸術となるのだ。

現在の花火大会では、一発のできばえはもちろんのこと、

15

10

5



星の配置や動きを工夫した新しい花火の例

▼ 韻

意 なぞらえる

文 ……しなければならぬ

文 いずれも

考 要因になる

意 余韻

類 はかない

同 完結



小野里 公成 「一九五七―」

東京都に生まれた。写真家。デザイナー。

著書に『花火百華』『日本の花火』などがある。

《出典》本書のために書きおろしたものである。

それを連続して打ち上げる時の組み合わせやリズムといった演出面も、観客を楽しませるとい
う観点から重要となっている。さらに、追い求めてきた丸く開く花火だけでなく、その技術を
もとに、さまざまな形やこれまでにない動きをする花火も生み出され続けている。

こうして、熟練された花火師によって作られる日本の花火は、世界に誇る（ほむ）ことのできる水準
となっている。だが、誰もがその仕組みや価値を確認するために、花火を見ているわけではな
いだろう。花火は、大きな音とともに華やかに夜空に咲き、その直後には（あとかた）跡形もなく消えてな
くなってしまふ。その印象が、心の中にのみ残るので、人々は何度も見たいと思うのだろう。
その一瞬の成果の背後には、花火師たちの高い技術が隠されている。古来、情緒、風情（ふぜい）とい
つた感覚をよく理解し、求める日本人にとって、華やかさとはかなさとを同時に味わえる花火は、
実に琴線（きんせん）にふれる、味わいに富んだ芸術なのだと思う。

10

5

意 意 意
風情 情緒 熟練

▼ 琴

▼ 跡

▼ 誇

千 みちしるべ

内容を捉えよう

- ① 筆者は、日本の花火の魅力第二大段落（P 51 L 1～18）と第三大段落（P 52 L 1～P 53 L 17）で、どのように説明しているか、説明の仕方の特徴を確認しながら整理しよう。

読み深めよう

- ② 花火の仕組みや様子を説明する言葉や表現（「割火薬」「割物」「芯物」「盆」「星が泳ぐ」「抜け星」「消え口がよい」）を用いる効果について、話し合おう。
- ③ 「学びナビ」を参考にして、筆者の説明の仕方を捉えるための観点をまとめよう。

自分の考えを伝え合おう

- ④ 筆者は、「日本の花火の楽しみ」をどのようなところに見いだしているか。筆者の考えに対する自分の考えを、「花火師」「芸術」という言葉を使って文章にまとめよう。

言葉・情報

言葉と表現

他の人から得た情報であることを示す表現を抜き出そう。

例 「花火師によると、……ものだという。」（P 52 L 1）

理由を表す表現

・これは、……ためである。（P 51 L 7）

まとめる表現

・こうして、……のだ。（P 53 L 16）

振り返り

- 筆者の意見とその根拠などに注意して読み、情報のつながりを理解しているか。
- 花火の魅力について筆者の主張と例示の関係に注意して筆者の説明の仕方を捉えているか。
- 筆者の説明の仕方に着目して読むことで、どのように文章の内容の理解が深まったか、グループで話し合おう。

この教材で学ぶ漢字

51 芯 シン 鉛筆の芯	50 魅 ミ 魅了	50 欧 オウ 欧州	52 綻 タン 破綻 ほろびる衣服の綻び
53 韻 イン 韻文	52 昇 シヨウ 昇進 のぼる 日が昇る		54 誇 コ 誇示 ほこる 誇らしげ
54 琴 キン 琴の音	54 跡 セキ 遺跡 あと 足跡		

